



## 子どもが育つ環境 (その1)

H30. 1. 12 住小: 坂井

新年第1号となります。本年も、よろしくお願ひいたします。

今回から、「子どもが育つ環境」というテーマで、教育と子育てのことを一緒に考えてまいります。

誰もが、子どもがよりよく育つには、その環境を整えることが大切だと気付いているように思います。しかし、人によって注目していることは、異なるでしょう。子どもが過ごす建物や身の回りの道具など物的なこと、家庭や学区の様子など地理的なこと、文化的なこと、それから友人や家族など人に関わることなど、様々考えられます。それらを、学級・学校、家庭、地域などにまとめてみることもできるでしょう。何が最も大切な環境であるかについて、簡単には言えません。私自身も、考えはまとまっています。しかし、目の前の子どもたちや学級の様子を見ると、これが大切な環境ではないかと気付かされるものがたくさんあります。これからの住吉小学校の教育に、積極的に生かしていくヒントもあります。

このシリーズがどのように進んでいくかは決まっていますが、私自身楽しみですし、これを機会に考えを整理したいと思っています。皆様から参考にしていただけることがあれば、ありがたいです。



### 【関わり合う仲間がいること】

昔も今も、遊び時間の子どもたちは生き生きとしています。(もちろん、学習時間もそのような姿はたくさんありますし、そうなるように努めています。)次は、1月10日と11日の遊び時間の様子です。



←体育館は、ご覧のとおり。この時期、縄跳びをする子が増えました。



学習室も開放しています。介助の職員も、子どもたちと一緒に過ごします。→



←長縄跳びをしている学級もありました。トランプ遊びを楽しむ子もいます。→



※ グラウンドが使えなくなる来年度は、教室での遊び方の工夫、遊び道具の充実も検討事項になっています。

子どもたちの様子を見て、「友だちと関わり合う」という環境が大切であることに改めて気付きます。(大人だって、仲間と楽しく遊んだり人に話を聞いてもらおうと心が和みます。)今回ご紹介したものは、いずれも望ましい関わり合いです。しかし、対極には「いじめ」という「退治」しなければならない関わり合いもあります。いじめは、油断をすると、どの子、どの学級・学校、どの組織でも起きる心配があります。子どもに関わるすべての大人が見守り、力を合わせなければなりません。始業式でも、「いじめの話」を加えました。

## 【居場所があること】

子どもたちの中には、図書室で一人(あるいは数人)で静かに本を読む子どももいます。静かな場所や読書が好きな子どもでしょうか。



昼休みに好きなことができる場所は、その日その子にとっては大切な居場所です。今は、図書事務職員が、図書室で子どもたちを見守っています。

## 【環境が変化すること】

中庭にも雪が積もりました。11日のロング休みのことです。20分程度の時間ですが、1年生の何人かの子が、ご覧のとおり雪だるま作りをしていました。この子どもたちは、教室に向かいながら、「昼休みに合体するんだよ」(つまり、雪だるまを完成させる)と話していました。自然環境の変化は、子どもを活動的にします。4月には、グラウンド改修工事が始まります。子どもたちの活動や体力作りが低下しないよう、むしろ、これを機会に子どもたちの活動意欲が増すよう、環境づくり(変化を加えること)に取り組みます。このことについては、改めてお知らせいたします。

4年生は、3学期に3つの学級を4つのグループに分けて指導します。個に即した指導がいき届くようにすることが一番のねらいですが、ほかに、5年生になることを見据えて、子どもたちの人間関係等に変化をもたせることで、学習への意欲を高めることも目指しています。学習を終えた子どもたちにインタビューすると、「〇〇先生から教えてもらってうれしかった」「ちょっと緊張したけど、何だか楽しかった」など、好意的な声をたくさん聞くことができました。



.....

「子どもが育つ環境」について、第1回目に取り上げたことのキーワードは、「仲間」「居場所」「変化」の三つでした。次に何が見えてくるか、・・・次回をお待ちください。

